

令和5年12月18日

宮城県保健福祉部医療政策課 御中

サテライト構想に対する質問

一般社団法人 宮城県精神科病院協会
会長 岩館 敏晴

村井嘉浩知事は、宮城県議会（令和5年11月定例会）において、県立精神医療センターのサテライト案（富谷本院，名取分院の二分化案）を突然公表した。精神保健福祉審議会に対して「丁寧な説明」もなく、当事者の意見を事前に聞くこともなく、一方的に公表した提案であり、多方面から批判された独断的姿勢に何の反省も見られないものであった。その後の発言を聞いても、強引にこの案を押し進めようとしていることは明らかである。

一方、この案について具体的なことは県議会において何ら提示せず、議会に対しても誠実な態度は見られず、今後の具体化については精神医療センター院長個人に責任を負わせるかの如きである。具体案が示されないため、議論すべき土台すらない現状にあるが、この案については下記のような課題と問題点があることを指摘し、その解決について県としてどのように考えているのか、以下の質問事項について令和5年12月末日までに文書にて回答を頂きたい。構想を提案した者として、責任ある回答を求めたい。

1. 病床規模の問題

精神医療センターの現258床から増床できないことを考えると、当初の計画通り富谷本院を170床にした場合、名取のサテライト分院は88床になる。

民間病院を公募した時点では、民間病院本院が33床を減床した上で、120床の分院を名取市に開設し、精神科外来90人，デイケア13人，訪問看護19人，入院96人を想定していたはずである。120床規模でも、仙南医療圏を含む県南の基幹的役割を担うのは困難と考えられたが、それでも名取に開設する民間病院には基幹的役割を担ってもらおうと、精神保健福祉審議会の場で県の担当者は発言している。

県南の基幹的役割を担いつつ、従来の地域包括ケアの維持も含めて考えた場合、名取分院として何床が適当だと考えるか、回答を頂きたい。

2. 病院機能の問題

本院とサテライトに二分化する場合、互いの機能分化の問題が生じる。これまで精神医療センターは一般的な患者の他に、夜間救急の患者，児童思春期の患者，クロザピン服用中の患者，医療観察法による通院処遇の患者等の診療を担ってきたが、この機能を本院と分院で二分するのか、片方に集約するのかの問題がある。仮に富谷本院に集約とした場合、現に医療を受けている県南のこれら患者にどう対応するのか、課題が残される。

一方、富谷移転の目的として、全県の精神科救急と身体合併症が謳われてきた。全県から救急患者が集まった場合、退院後は元の地域に戻るしかないので、継続的な治療は困難であ

り、結局はそれぞれの地域における医療とケアに引き継がれることになる。身体合併症も同様であり、身体疾患の治療が終了すれば、元の医療機関に戻ることになる。それを考えると、富谷本院は短期間の限定的な医療を主機能とする病院になる。仮に、富谷本院で一般的な急性期医療を展開することになれば、県北では急性期治療の病床が過剰になり、民間病院との競合は避けられない。精神科救急と身体合併症治療を主機能とする病院が、果たして精神科の「本院」と位置づけられるかどうかも含め、二分化したときの本院と分院の機能分化について回答を頂きたい。

3. 財政と経営および運営の問題

本院と分院に分けた場合、富谷市明石台東の土地の購入費の他、2つの病院の設計費、建設費がかかる。また、2つの病院とも100～200床程度の小規模病院になり、経営は厳しくなる。小規模であるため、必要医師数や必要看護師数は本院・分院とも現在より減員になるが、当直医や夜勤看護師はそれなりに必要であり、医業収益に対する人件費比率は今より高くなる。県議会では、減床になる富谷本院の運営費負担金は病床数に合わせて減額になると県は答弁しているが、名取分院が黒字化するとは限らず（当協会の試算では88床以下では3億円を越える赤字が想定される）、本院と分院を合わせると現在の年間8億円の運営負担金は更に増加する可能性が高い。また、富谷本院は開院当初は患者が集まらず、赤字経営から始まると想定されることを考えると、県の財政負担は増すと共に、宮城県立病院機構（法人）の病院経営は今以上に厳しくなることが想定される。二分化によって運営費負担金が現在の年間8億円を下回ると言える根拠を示して頂きたい。

また、知事は二分化しても現有職員で2つの病院を運営してゆくことを定例記者会見で述べている。運営する法人からすれば、人員配置を含めて2病院の運営は困難を極めると思われるが、どのような人員の配分を考えているか見解を回答頂きたい。

併せて、2つの病院を「県立」として長期的に維持できると考えているかについても回答を頂きたい。

4. 民間競合、民業圧迫の問題

サテライト構想以前から、県北部における民間病院との競合の問題があった。富谷本院の開業が精神科病院・精神科病床の適性配置と言えるか問題は残される。村井知事は、病院再編の必要性について、過当競争から仙台市内の民間病院が潰れる危険性があるから再編は必要と従来から主張しているが、精神科医療において精神医療センターの富谷移転によって県北の民間病院が潰れる危険性がないかどうか、県の見解を回答頂きたい。

5. 地域医療計画との整合性の問題

第8次地域医療計画では精神科の基準病床数は4,618床とされている。これに従えば、宮城県は現在、基準病床数より約1,400床多い実情にある。当初は88床の減床が想定されていたが、サテライト構想により、過剰な精神科病床はほぼ現状維持になると想定される。今後、県は民間病院に対して過剰病床を指摘することはないとの理解でよいか回答を頂きたい。

以上